

<研究ノート>

韓国語の丁寧さを表わす終助詞요についての覚え書

梅田博之

キーワード： 丁寧さ、終助詞、基本形、文法化、指定詞、中称(하오体)

1. はじめに

動詞句や名詞句・副詞句などに付いて、待遇法語尾とは別に、その文を丁寧な言い方にする形式(付属語・終助詞)が韓国語に存在する。この形式に関する、周到な研究として野間秀樹(2006)があり、この形式が従来の教材において等閑視されてきたことを批判し、その基本形の設定についてコーパスを利用した実証的な考察を行っている。

筆者もこの「丁寧さを表わす形式」の存在については韓国語(当時は朝鮮語と呼んでいたが)学習の初期段階より認識していた。1952年4月に言語学科進学後、河野六郎先生に東京教育大学(当時)の授業「朝鮮語学」でお教えを受けたが、その後、河野先生は『研究社 世界言語概説 下巻』(1955)の「朝鮮語」の中で요について見解を述べておられる。それゆえ、筆者が初めての韓国留学直前に、初めて作った教材『朝鮮語の基礎』(服部四郎監修、1967年4月、(株)テック)でも요について解説を施している。

その後、私が1967年2月に初めて韓国留学を果たし韓国語社会の中に身を置いた時、韓国語の日常の話し言葉に関して強烈な印象を受けたことのひとつが、発話中のほとんど文節ごとに付されるといってよいくらいに요を多用する現象であって、当時は日常会話で特に巷での若い年代の言葉では요がきわめて頻繁に使われていた。

よのほかに말이야「何々なんだがね」という形式(待遇法によって말이다, 말입니다, 말이에요 等に替わる)も分節ごとに挿入されてよく使われ、余談であるが当時韓国語を学んでいた者の間では「マリヤ(さま)」が自然に出て来るようになったら韓国語も本物だと冗談でよく言ったものである。

また、日常の生活においては、朝夕の街頭で新聞売りの少年たちの‘신문이요, 신문.’《新聞です、新聞》、あるいは‘석간이요, 석간. 석간이 나왔습니다.’《夕刊です、夕刊。夕刊が出ました》という売り声や、雨が降り出せば途端にビニール傘(竹の骨にビニールを張った使い捨ての傘)の束を抱えて街に走り出す少年たちの‘우산이요, 우산. 우산 사세요’《傘です。傘をお買いください》という売り声を耳にしたものである。1970年代初期の頃から街頭の新聞売りの少年たちの姿は次第に消えていったと記憶している。

それゆえ、話し言葉の自然な対話を学習対象とすれば、教材作成時によを一つの文法

事項として提示し説明を加えることは当然であり、またそのようにしてきたつもりであるが、この形式の基本形をどのように捉えるかについてきちんと把握していないままであったので現在まで発言を控えて来た。昨年(2011年)の4月に内山政春氏より「朝鮮語のいわゆる「ていねいさをあらわす-요」について」と題する学会発表資料(以下、内山(2011)と呼ぶ)をいただき、拙著(複数)に記されたこの形式に関する筆者の見解が適切に漏れなく紹介されているのを見て拙著を読み直し、いささか考えを述べてみたい気持ちになった。ただし、もはや広範な言語資料の調査や実地調査を行うことは健康上叶わず、筆者が作成した教材添付の音声資料や往時の記憶など、きわめて限定された資料に基づいた考察であるので推測を含み恣意的な部分がある。「研究ノート」とする所以である。

2. 요に関する従来の教材での扱い方

요の文法的機能に関する日本での初めての詳細な言及は、おそらく上述の河野(1955: 412)であろう。以下に引用しておく(旧漢字・旧仮名遣いは現代のものに変えた)。「(前略)このBanmarは決して鄭重なものではなく、等称程度の間で等称ほどの親密さのない、ごく一般的な言い方である。このBanmarに対してその上称と称すべきものが今日出来上がっている。それはBanmarに'yoをつけた形である。'iss'əyo《イマス》、gass'əyo《行キマシタ》、'ogəiss'əyo《来ルデショウ》。(改行)この-'yoは指定詞-i-の中称-'i'oのつづまった形である。この-'yoは他の終止形或いは接続形にもつく。例えば、'iss'ul[?]ga'yo《アルデショウカ》は'iss'ur[?]ga(推量法・疑問形・等称)にこの-'yoがついた形である。又、'issnundəi'yo《アルンデスガネ》は'issnundəiという接続形に-'yoをつけた形である。この-'yoをつけた形は特に女の人の言葉に多いようである。(後略)」と述べておられ、요が上称形(합쇼체)に当たる丁寧さを表す形式であること、指定詞이다の中称(하오체)の形が文法化したものであること、文の多様な成分に付くこと、女性が多用する形式であることなどの特徴が漏れなく指摘されている。

筆者の場合、4で示した教材のうち、梅田(1967)は絶版になり現在見ることができないので以下に紹介すると、-지요に対する説明として「-지요はていねいさが예사높임말と同じ段階の終止語尾で、相手に同意を求める場合や相手の意見に同意する場合などによく使われます。この形も陳述、疑問などの形が同形です。なお、-쇼は-지요の縮略形です。また-지요の-요をとると、ていねいさが반말と同じ段階になります: 짜지〈塩辛いだろ〉、맵지〈辛いだろ〉」(p. 163)、-다니についての説明の中で「-다니は意外な気持を表現する語尾です。네가 오다니〈お前が来るなんて〉。また요をつけるとていねいになります。 김선생님이 오시다뇨 〈金先生がいらっしゃるなんて〉」(p. 180)。오셨나요に対する説明として「오셨나に요をつけた形で예사높임말程度のていねいさの表現になります」(p. 180)、없고요に対する説明として「없고を終止的に使い요をつけ

て、ていねいな言いかたにしたものです。」(p. 181) のような記述があり、요が略待丁寧形(해요体)程度の段階の待遇表現であるということを述べている。

梅田(1973)の文法説明の中に「なお요はコピュラの中称形이요^ㅁに由来し、名詞節、動詞節、副詞節の殆どすべてにつき得る。(例えば오늘요 학교에서요 김씨를 만났어요 《今日デスネ学校デデスネ金サンニ会イマシタヨ》)」(p. 30) という요に関する説明があり、内山(2011)にも引用されている。梅田(1976)も同様の説明がある(p. 30)。

梅田(1985)はNHKハングル講座(1984)のテキストをもとに作った教材であって各課の構成は対話・対話に現れる新出語句の説明・対話の中に新たに出て来る文法事項の解説から成っているが、その第14課の対話で学習すべき文法事項のひとつとして요を取り上げ、語句説明で춘향전요?について『春香伝』ですか(요は文節に付いて丁寧な言い方にする語(後略))」(p. 119)とした上で、文法解説の4で요は「名詞句、副詞句などに付いて丁寧な言い方にする語です。(後略)」(p. 122)という説明を行い、巻末の基本文法概説でも言及している(p. 273)。梅田(2006)も頁は異なるが同様である。

教材においては、初級段階では丁寧な言い方、つまり待遇法語尾-습니다(上称)あるいは-어요(略待丁寧形)の形から導入するのがふつうであり、またそれが妥当であると考えられる。そのため初期段階では-어요を-어と요に分析して説明せずにごまごまと学習者に覚えさせることになる(-어요を分析せずにこの段階のままにとどめることに対する批判として河野(1971:97)、内山(2011: §4)がある)。ある程度学習が進んだ段階で-어요, -군요, -지요などに共通な要素として요を理解させると同時に、-어, -군, -지などとの{丁寧/ぞんざい}の対比から丁寧さを表す終助詞요を抽出し、さらに対話例の中に述語以外の文成分に付く요も導入して、終助詞요の全体的理解に導くという段階的な手順を踏むのがふつうであると思う。このような事情のために、教材の中で従来ひとつの文法単位としての요のまとまった説明は学習過程のかなり後の部分で取り上げられることになり、上掲の一部の拙著での扱いのように요の働きを個別的で整理されていない形での説明にとどめてしまいがちである点は十分反省しなければならないところである。

3. 요の文法化に関する従来の研究

「요は指定詞이다の中称の形이오のつづまった形である」というのが河野六郎先生(1955)のご見解であり、筆者もそれ以外の可能性はないものと考え河野先生のご見解を踏襲してきたが、私としては決して論証を経たものではなかった。

요が指定詞이다の中称の形이오の文法化の結果であることを初めて論証した研究として、고광모(2000:259-282), 고광모(2004:5-7)があり、さらに 김현주(2010:228ff.)は補助詞요が繫辞(=指定詞)と待遇法語尾-오の結合から文法化したことと関連して、요がほとんどすべての文成分に結合できるようになったのは、요が疑問文、特に反問構造から文法化したためと見られること、요の初期の例には疑問文が多いこと、終結語尾

と요が結合して-어요, -지요, -까요, -네요等の融合形を成立させたこと等を開港期の文献資料を渉猟し例をあげて論証している。また、韓国語には他にも繫辞と語尾が結合した形態が文法化していわゆる補助詞に発達するケースがあるとして、이든~든, 이고~고, 이며~며, 이랑~랑の例をあげ、요も場合によって-이요で実現されることもあり繫辞からの発達の痕跡を示していると述べている。

4. 요の音声的実現の状況

さて、요が音声的にどのように実現されるかを明示的に記述することは、実際の発音教育のためにも、요の基本形を定めるためにも必要なことであるが、上述したように、広範な言語資料の調査や提報者調査は筆者にとって難しいので、筆者作成の教材の音声資料の観察を主とし、韓国テレビドラマ等の聴取による観察やその他の記憶をもとに考えてみることにする。

a) 拙著の音声資料の調査

筆者が作成にかかわった韓国語教材については内山(2011)に正確なリストが提示されているが、それに若干の資料を付加して、以下のリストを作り、聞き取り調査の結果も同時に記した。添付の録音テープ乃至 CD に録音してくださった方々のお名前はそれぞれの教材に明記されているのでここでも【 】内に明記した(敬称略)が、以下の記述ではお名前を出さず、教材ごとに必要に応じて男声、女声という形で発音者に言及しておく。

(1967)『テック／アジア・アフリカ語大系 1 朝鮮語の基礎』(服部四郎監修) テック【金東俊(男)・李賢起(女)】: 本書における요の記述は上に述べた。音声は12チャンネルの幅広のテープを用いる特殊な機械を用いたものなので現在利用することができない。子音終わりの語尾に付く例は-군요が数例出ているだけである。

(1971)『朝鮮語「基本文型」1・2 (昭和49年度言語研修(朝鮮語)テキスト2-1・2)』(練習は金吉鎔氏作成) 東京外大アジア・アフリカ言語文化研究所(テープ無): 教室における教材であるので、各課とも対話・各種練習・新出単語から成り文法解説はない。

(1973)『カドリール式朝鮮語 1600(上巻)』文林書院【金裕鴻(男)・申英彦(女)】:(テープ付、本書は上巻が刊行された直後に出版社が倒産して中巻・下巻の出版が不可能になり、その後、『韓国語 I・II』(1976)として改めて出版された) 요の例は少なく-군요の例が4例あるに過ぎず、すべて男声で〈ㄴ添加〉は起こらず[구뇨]である。

(1976)『韓国語 例文活用基本単語集 I・II』東京三中堂【金鍾教(男)・南賢京(女)】: 短文から成る用例集であるので요を含む例文はあまり多くない。-군요の例はIに3例(いずれも女声)、IIに女声が10例、男声が1例ですべて[구뇨]、-ㄴ결요の例が1例(女声)で〈ㄴ添加〉無しの[거료]である。

(1978)『KDD 通信教育 Elementary Korean 韓国語入門』KDD エンジニアリング・アンド・

コンサルティング【金東俊(男)・韓美卿(女)】：-군요 が 14 例出るが、男声・女声とも[구뇨]と発音されている。名詞+助詞+요は 국화는요が 1 例(女声)あるが[느뇨]と発音され〈ㄴ添加〉は生じていない。

(1985-1986)『NHK テレビ アンニョンハシムニカ〜ハンゲル講座〜』日本放送出版協会(放送テキスト 隔月刊)(テープ無)：これをもとに(1985)と(1989)の教材が作られたので内容は以下を見ていただきたい。

(1985)『NHK ハンゲル入門』日本放送出版協会【金東俊(男)・宋貴英(女)】：-군요は男声が 8 例、女声が 9 例出るがすべて[구뇨]で〈ㄴ添加〉は無い。なお〈ㄴ添加〉については 85 頁で若い世代にそういう発音もある旨説明している。-거든요の 2 例も[거드뇨]で〈ㄴ添加〉はない。名詞+요は춘향전요?と 무슨 책요?の 2 例でともに男声で[추냥저뇨]、[책교]で〈이挿入〉も〈ㄴ添加〉も無い。この点は最近も金東俊先生に確かめたがいよではなくて요で発音するとのことであった。그럼요は女声で[그럼뇨]〈n挿入〉。

(1989)『スタンダードハンゲル講座 1 入門・会話』(金東俊教授と共著)大修館書店【金東俊(男)・柳赫秀(男)・卓星淑(女)・許栄恩(女)】：金東俊氏以外の男女 3 名について述べる。-군요は 34 例出て来るうち、3 名とも[군뇨]〈ㄴ添加〉が 15 例、[구뇨]〈初声化〉が 16 例と揺れている。語尾-거든요+요は 2 例とも〈ㄴ添加〉がなく初声化される。助詞만+요(잠깐만요)は 2 例あつていずれも[만뇨]〈ㄴ添加〉と発音されているが、副詞곧장+요も[곧장뇨]と〈ㄴ添加〉で発音されている。他方、普通名詞+요は 2 名の男女によってともに오곡밥이요 [오곡빠비요]{〈이挿入〉有・〈ㄴ添加〉無}と発音されている。大きな傾向としては〈ㄴ添加〉を起こしながら普通名詞の場合だけは이요の形で実現されるという状況である。

(2006)『CDブック NHK 新版ハンゲル入門』日本放送出版協会【李忠均(男)・鄭相熙(女)】：男女ともに-군요 は〈ㄴ添加〉で[군뇨]と発音するが、女声はn挿入のnが短くて初声化の[구뇨]かどちらか分かりにくい場合もある。-거든요[거드뇨]で男女とも〈ㄴ添加〉の発音である。그럼+요(그럼요)も[그럼뇨]と〈ㄴ添加〉で発音される(女声)。名詞+요は 2 例あるが춘향전요?[춘향전뇨], 무슨 책요?[책뇨]といずれも{〈이挿入〉無・〈ㄴ添加〉有}で発音される(男声)。

上記の発音者について簡単にご紹介しておく。金東俊氏(神田外語大学名誉教授)、李賢起氏(前高麗大学校教授)、金裕鴻氏(当時 NHK 国際局)、申英彦氏(誠信女子大学校名誉教授)、金鍾教氏・南賢京氏(当時ソウル基督教放送局声優)、韓美卿氏(韓国外国語大学校教授)、宋貴英氏(檀国大学校教授)、柳赫秀氏(当時 留学生)、卓星淑氏(가천大学校教授)、許栄恩氏(大邱大学校教授)、李忠均氏(東京成徳大学講師・東大大学院生)、鄭相熙氏(麗澤大学大学院生)。金東俊・金裕鴻両氏と声優の両氏を除き、録音当時は大学院留学生であった。みんなソウルを中心とする地域のお生まれで標準的

な韓国語の話し手であられる。久しぶりにお声を聴き、お互いに若かった時を思い出し、懐旧の思いとともに再度ご協力に感謝の意を表したい。

発音して下さった方々を年齢によって世代別に分類するに際し、氏名および年齢を公開することは避けるべきだと思うので、きわめておおまかにシニア世代(A)、ミドル世代(B)、ジュニア世代(C)の3つに分けて音声実現の特徴を見ることにする。発音者と世代の関係は教材の刊行年と当時の身分、現在の地位によって推察していただきたい。

b) 韓流ドラマによる観察

最近、テレビで韓国ドラマを放映することが多く、楽しんで見ているうちに次のような発音を確認できた。きわめて断片的な例に過ぎず、発音者の出身方言も分からないが、いずれも上の世代分けで言えばCに属すると考えられる。

아직요 [아징뇨] : “하늘이시여 (神様お願い)” というドラマで、デパートの試着室でスラ(이수경嬢)が店員に早く試着を済ませるよう催促されて ‘아직요, 아직요’ [아징뇨, 아징뇨] (まだです、まだです) と答える場面。ただし、同じドラマ内で아직요は同じC世代の俳優さんの発音で[아지기요]という発音もある。

지갑요 [지감뇨] : 同じく “하늘이시여 (神様お願い)” の中で、ワイドショウのアンカーマンである구왕모 기자[李太坤氏] がデパートで贈り物の財布を探している場面で ‘뭐 찾으세요?’ --- ‘지갑요.’ を〈ㄹ添加〉の形で発音していた。

정말요 [정말료] : “Seeking Love (恋人づくり)” で若い女性が〈ㄹ添加〉で発音していた。

아직요 [아지기요] : 他方、“내 이름은 김삼순 (私の名前はキム・サムスン)” では若い女優さんが아직요 を[아지기요]と発音していた。また、“웃어라 동해야 (笑って、トンへ)” でトンへ (지창욱氏) が「通販の人に話したか」という問いかけに対して아직요 [아지기요] 「まだです」と答えていた。

c) 最近の他の韓国語教材

南潤珍教授から「まいにちハングル講座」(2011.10~2012.2) のテキストとCDを頂いたので拝聴させていただいたが、오셨군요, 고맙군요, 뭘요, 정말요, 방향이요, 협주곡이요等々の例があり、男声女声とも[오셨군뇨], [고맙군뇨], [뭘료], [정말료]は〈ㄹ添加〉の発音であるが、방향, 협주곡は初声化の[이요]で発音しておられた。

d) その他の経験

上に述べた新聞や傘の売り声は1967年~1969年のころのことで凡そ40年余り前の少年たちである。子音終りの名詞語に이요を付けた発音をしていた。上述の世代区分に当てはめればBに属することになりそうである。ただし、この이요は丁寧の助詞요とは異なり中称の이요に近いとする見解をお持ちの方もあり、行商の売り声は慣習化されたものもあり得るので、資料としては保留することにする。

上掲a)の録音資料の発音者のよに関する発音に、b), c)に述べた発音の状況を加え、さらに現在確認できる母語話者の方々の報告をも加えて整理すれば以下のようなになる

う。この表はきわめて限られた資料をもとに作ったものであるから、参考としてご覧いただき、今後、世代別、方言別等の詳しい調査が行われることを期待したい。

	A	B	C
語尾+요	初声化	ㄴ添加/初声化	ㄴ添加
	덥군요[덥꾸뇨], 오거든요[오거드뇨]	많군요[만쿤뇨/쿠뇨], 있거든요[잇꺼드뇨/드뇨] 많아졌지만요[-지만뇨]	덥군요[덥꾼뇨], 오거든요[오거든뇨]
助詞+요	初声化	ㄴ添加/初声化	ㄴ添加
	저는요[저느뇨]	잠깐만요[잠깐만뇨]	저는요[저는뇨], 필요[필료]
間投詞+요	初声化	ㄴ添加	ㄴ添加
	그럼요[그러료]	그럼요[그럼뇨]	그럼요[그럼뇨]
副詞+요	初声化	ㄴ添加/初声化/이挿入	ㄴ添加/이挿入
	곧장요[곧장요]	곧장요[곧장뇨/곧장요 /곧장이요]	아직요[아징뇨/ 아지기요]
名詞+요	初声化	이挿入/初声化	ㄴ添加/이挿入
	무슨책요?[무슨채교] 추향전요?[추냥저뇨]	오곡밥이요[오곡빠비요] 책이요[채기요/채교]	무슨책요?[무슨챙뇨 /채기요], 지갑요 [지감뇨/지가비요]

5. まとめ

上述のようによの音声的実現の状況を世代別に大まかに整理してみると、A世代は基本形が<ㄴ添加>を起こさないよのようである。言うまでもなく、指定詞이다の中称形이오が終助詞化して、さまざまな文節に付けられるようになり、語形の短縮化（それは同時に語形の統一化でもあるが）が図られよとなったのはA世代より前の世代であったであろうが、A世代では確かに子音終わりの普通名詞に付く場合にも短縮形のよが付いてパッチムの初声化を生じ後続音節の[jo]に続いている。A世代、あるいはその上の世代では、待遇表現として指定詞の이오を含む中称もふつうに使われ、且つ羅列の連結形叙述格助詞 이요も実際に使われていたと思われるので、短縮化したよはそれらとの差別化にも役立った。

B世代の発音では、子音終わりの普通名詞には이요が付くことが多いが、この世代は中称の言い方や羅列の連結形叙述格助詞があまり使われなくなり、それとの差別化意識が希薄になり、且つ同じく이다から文法化した形式として이나, 이며, 이든, 이랑（これらは名詞のみに付くので이が保たれた）などが存在するのでそれらに類推して이요という形で実現するようになったのではないだろうか。指定詞の中称形이오から文法化し

A世代でよであったものが、B世代で再び이요のようなよより長い形に戻ることにについては通常の文法化過程とは別の要因を考えたほうがよいと思われるからである。筆者はこれを類推による<이挿入>と捉えたい。なおよは、①さまざまな文節に付くことができ且つ②文末・文節末に現れるにも関わらず他の助詞や語尾が하고>하구, 이것도>이것두のように陰母音化(ㅛ>ㅛ)するのに反しよはその形を堅持し陰母音化を生じさせないなどの点で通常の助詞類より自立性が高いと考えられ、自立語間で生じる<ㄹ添加>規則が適用されて、まず語尾類、助詞類などの後に付く際に<ㄹ添加>を生じたと思われる。

C世代では、<ㄹ添加>が生じるケースがさらに増え、普通名詞に付く際にも<ㄹ添加>を起こす場合が多くなった。すなわち、-군요[군뇨], -걸요[걸료], 저는요[저는뇨], 그림요[그림뇨], 아직요[아징뇨/아지기요], 책요[챙뇨/채기요], 지갑요[지갑뇨]。おそらく<ㄹ添加>の形が今後の趨勢と考えられるが、なお名詞の場合、特にはっきり発音する場合には、[이요](<ㄹ添加>が無く<이挿入>)で実現することもある。さらにさまざまな要因を考える必要がある。

謝 辞

本稿作成の過程で李允希教授・南潤珍教授にご教示に与かった。感謝の意を表する。

参考文献

- 河野六郎(1955)「朝鮮語」『市河三喜・服部四郎共編世界言語概説 下巻』研究社 pp. 359-439.
 (『河野六郎著作集1』平凡社、1979年、pp. 3-85に再録)
- 河野六郎(1971)「朝鮮語の膠着性について」東京教育大学言語学研究室会編『言語学論叢』第11巻、昭和46年11月(『前掲書』pp. 86-95.に再録)
- 野間秀樹(2006)「現代朝鮮語の丁寧化のマーカー“-yo/-iyo”について」『朝鮮学報』第199・200輯、朝鮮学会 pp. 37-81.
- 内山政春(2011)「朝鮮語のいわゆる「ていねいさをあらわす-요」について(1)」朝鮮語教育研究会レジュメ、2011年3月27日、京都 19p.
- 고광모(2000)「상대높임의 조사 ‘-요’와 ‘-(이)ㅂ쇼’의 기원과 형성 과정」『국어학』36, 국어학회, pp. 259-282.
- 고광모(2001)「반말체의 등급과 반말체 어미의 발달에 대하여」『언어학』30, pp. 3-27.
- 고광모(2004)「전남방언의 상대높임법 조사 ‘-(이)라우, -(이)랍닌짜, -(이)랍니아, -(이)랑가’와 ‘-이다’의 기원과 형성 과정」『언어학』38, 한국언어학회, pp. 3-42.
- 김현주(2010)『국어 대우법 어미의 형태화 연구』고려대학교 대학원 박사논문.

(2012. 2. 10)